



全国初、統計調査で用いた玄米をフードバンクへ寄付する贈呈式を開催しました

東海農政局は、「おむすびの日」※である1月17日に、東海農政局が運営するマッチングシステム「食の架け橋」を通じて、水稻調査試料の玄米のうち270kgを特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋と特定非営利活動法人フードバンク愛知の2団体へ寄付しました。

農林水産省が実施する水稻調査で、玄米をフードバンクへ寄付する取り組みは、今回が全国初となります。今回の取り組みにご理解、ご協力をいただいた調査対象経営体の皆さまに感謝申し上げます。



特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋 理事長 前川行弘氏（左）、
特定非営利活動法人フードバンク愛知 事務局 磯野泰治氏（中央）、秋葉東海農政局長（右）



寄贈された玄米の一部

水稻調査の
しくみ



水稻調査：
東海農政局をはじめ農林水産省で実施する統計調査の一つ。調査ほ場で穂数・もみ数などを調査した後、収穫期に水稻を刈り取り、10アール当たり収量、収穫量や作況指数などを推定します。通常、調査で用いた玄米は、調査終了後、生産者に返却しています。

※「おむすびの日」：平成7年に発生した阪神・淡路大震災で、ボランティアによるおむすびの炊き出しが人々を大いに助けたことから、人と人との心を結ぶ「おむすび」の日として震災の起きた1月17日が記念日とされました。

お問合せ先 統計部 生産流通消費統計課
TEL 052-763-4732

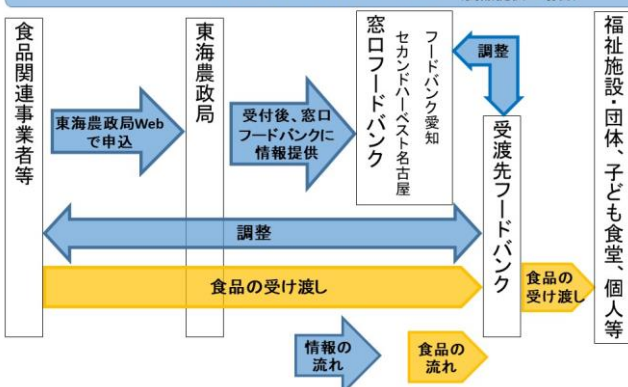
「食の架け橋」を紹介します

東海農政局が運営する「食の架け橋」は、食品企業から発生する食品ロスを削減するため、Webサイト上で食品関連事業者等※とフードバンク活動団体のマッチングを行う場です。

食品の寄付を希望する食品関連事業者等が東海農政局Webサイトから申し込んだ後、窓口フードバンクが調整し、受け渡すフードバンクを決めて食品を提供する仕組みとなっています。

※食品製造業者、食品卸売業者、食品小売業者、外食業者、農林漁業者、物流業者、金融機関など

「食の架け橋」フロー図（食品提供の場合）



「フードバンク活動」とは、生産・流通・消費などの過程で発生する未利用食品を食品企業や農家などからの寄付を受けて、福祉団体等必要とする方に寄付する取り組みです。



「食の架け橋」および
フードバンク活動団体
の詳細はこちら



「食の架け橋」
申し込みフォーム
はこちら



お問合せ先 経営・事業支援部 食品企業課
TEL 052-746-6430

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝アワード」（第11回選定）受賞者の紹介

農林水産省および内閣官房は、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝アワード」として、農山漁村の活性化等に取り組む優良な30事例を選定しました。東海農政局管内（岐阜県、愛知県、三重県）からは、3事例が選定されました。

また、東海農政局は、「東海農政局版ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として3事例を選定しました。



ディスカバー
農山漁村（むら）の宝
ロゴマーク

○全国選定の3事例

《ビジネス・イノベーション部門》

80%山のまちを元気にする協議会
(岐阜県八百津町)

特別賞

農泊賞

- ・八百津町の今につながる文化と歴史を体験型ワークショップにまとめ、長期滞在ツアーに組み込み提供する農泊実施体制を確立。
- ・山の荒廃の象徴ともされている藤つるを祭りの山車を組む際に活用する取り組み等を通して、里山の自然環境整備に取り組んでいる。



地酒体験イベント

《コミュニティ・地産地消部門》

特定非営利活動法人おかざき農遊会
(愛知県岡崎市)

- ・「菜園都市おかざき」を掲げ、次世代を担う子どもたちをはじめ広範な市民を対象に野菜作りの楽しさを伝える活動に力を注いでいる。
- ・耕作管理する農地は、耕作放棄地再生を中心に約14haまで拡大。栽培した野菜は、定期開催する朝市等を通じ、市民へ安価で販売している。



サツマイモの収穫体験

《コミュニティ・地産地消部門》

服部農園有限会社

(愛知県大口町)

特別賞

美しい景観の保全に資する取組賞

- ・平成30年に耕作放棄地を活用し、約30aの農地にヒマワリを咲かせた。
- ・令和3年から、毎月第3土曜日の朝に農地のゴミ拾い活動を主催。また、同年から「田んぼの学校」を主催し、家族ぐるみで米作りや身近な昆虫などを学ぶ機会を創出している。



名所となったヒマワリ畑

○東海農政局選定の3事例

《個人部門》

株式会社寺田農園 代表取締役
寺田真由美
(岐阜県高山市)

- ・女性活躍の事例収集のための視察や女性農業者の視察を受け入れ、事例発表や講演を行うことで、女性農業者のロールモデルとしての役割を果たしている。
- ・地域住民に対する就業体験や食育ワークショップなどを通じて地域農業の大切さや地域農産物のおいしさを伝えている。



食育ワークショップ風景

《コミュニティ・地産地消部門》

中電ウイング株式会社
いちご事業部
(岐阜県可児市)

- ・障害者に対する差別や偏見をなくすため、地域の小学校と連携し農業体験を通じた多様性教育に取り組んでいる。
- ・農福連携に取り組む地域の事業者とコラボ商品の開発、障害のある社員の交流など、新しい農福連携を実践している。



農福連携商品「贅沢パウム ウイングいちご」

《コミュニティ・地産地消部門》

株式会社田原観光情報
サービスセンター
(愛知県田原市)

- ・田原市内の3つの道の駅を運営しながら地域の活性化に取り組んでいる。
- ・売れ残った野菜を有効活用して6次産業化商品を開発し、道の駅内で加工販売することで生産者の所得の向上とフードロス削減に取り組んでいる。



道の駅内の地産地消型6次産業化商品

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝アワード」（第11回選定）詳細はこちら
<https://www.maff.go.jp/tokai/noson/toshinou/discover/index.html>



「スマート農業推進フォーラム2024 in東海」を開催しました

東海農政局と農研機構中日本農業研究センターは、スマート農業技術の普及拡大を図るため、令和6年12月17日にSTATION Ai（名古屋市昭和区）において、「スマート農業推進フォーラム2024 in東海～持続可能な農業の展開とスマート農業の展開～」を開催しました。

当日はシンポジウムと展示会場合わせて農業者、農業者団体、民間企業、研究機関、自治体など約200名が参加しました。

シンポジウム

食料・農業・農村基本法の改正、環境負荷低減への取り組みの必要性、スマート農業の今後の展開について秋葉東海農政局長が講演しました。

また、スマート農業実証プロジェクトの成果報告や、三重県拠点と包括連携協定を締結した鳥羽商船高等専門学校の学生がAIロボットによるカラス、ヒヨドリの追い払いシステムなどの開発事例の発表をしました。このほか、自動運転田植機をはじめとしたスマート農業技術の現場実装についての事例発表とパネルディスカッションを実施しました。



シンポジウムの様子



鳥羽商船高等専門学校
3年 荻田龍斗氏

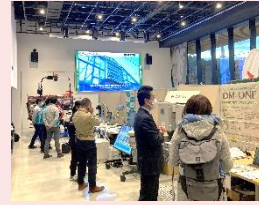


合同会社みなみ農園 南 友照氏（左）
株式会社クボタ 藤田 強氏（中央）
農研機構 櫻井民人氏（右）

展示

東海地域スマート農業推進ネットワークの会員企業等によるスマート農業技術や製品を展示しました（18団体）。

また、株式会社東海近畿クボタのご協力により自動運転田植機を特別展示しました。



展示の様子



自動運転田植機

参加者へのアンケートでは7割以上から「参考になった」と回答があり、「スマート農業を幅広く網羅する内容で良かった」「実装されている技術の内容を知る良い機会となった」等の評価をいただき、スマート農業技術の普及拡大につながるイベントになりました。



お問合せ先 生産部 環境・技術課 TEL 052-746-1313

シンポジウムの資料、出展者の情報はこちら

<https://www.maff.go.jp/tokai/seisan/kankyo/tech/24sympo.html>

環境にやさしい畜産業に取り組んで「みどり認定」を受けませんか

農林水産省は、環境負荷低減により持続可能な食料システムを構築するための「みどりの食料システム戦略」を推進しています。そして、農林漁業者の環境負荷低減の取り組みを認定し、メリット措置も受けられる「みどり認定」制度を実施しています。

畜産分野においても「みどりの食料システム戦略」は重要です。家畜は暑熱ストレスに弱く、気温上昇の影響を受けやすい一方、畜産業自体も飼料生産、飼育、排せつ物処理などで温室効果ガスが発生しており、環境負荷が生じている側面もあります。

持続可能な畜産業の実現に向けて、環境にやさしい畜産業に取り組んで、みどり認定を受けてみませんか。

具体的な申請受付は各県が行いますので、ご相談は各県Webサイトのお問合せ先へご連絡をお願いします。

みどり認定のメリット措置

- 設備投資の際の税制優遇が受けられます。
※ 自給飼料畑等における土づくり、化学肥料・化学農薬の使用低減の取り組みに限ります。
- さまざまな国庫補助金の採択で優遇されます。
※ 詳細については、必ず各事業の要綱・要領等をご確認ください。
- 日本政策金融公庫の低利融資等が活用できます。

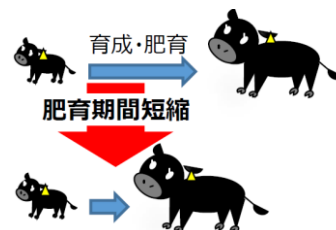
認定の対象となる取り組み例

- 自給飼料畑などにおける、土づくり、化学肥料および化学農薬の使用低減
- 温室効果ガスの排出が少ない家畜排せつ物の管理方法の実践

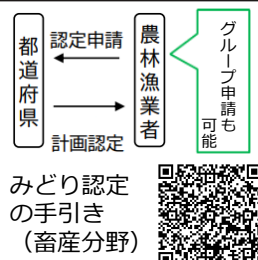


New!

- 家畜改良増殖目標の標準肥育終了月齢よりも早い出荷の実践



申請の流れ



各県Webサイト



岐阜県 農産園芸課



愛知県 農業経営課



三重県 農産園芸課

お問合せ先
生産部 環境・技術課
TEL 052-746-1313

令和6年度 学校給食セミナーを開催しました

学校給食における地場農産物の活用は、食育推進基本計画で数値目標が掲げられています。また、持続可能な食を支える食育推進の観点から、環境に配慮して生産された農産物の活用も重要となっています。

東海農政局は、令和6年度に東海3県（岐阜、愛知、三重）で学校給食セミナーを開催しました。

学校給食における地場産物・有機農産物等の活用を推進するため、給食事業関係者が参加し、学校給食に取り入れる意義や工夫について有識者による講演や、自治体から有機給食の導入事例紹介等を行い、課題解決に向けて参加者と講師により意見交換を実施しました。



基調講演
（第3回 杉木悦子氏）



事例紹介（第1回（愛知県岡崎市）
（小林氏（左）、川合氏（右））



意見交換（第2回）

【第1回】令和6年7月2日（津市）

基調講演：京都府立大学大学院 准教授 中村貴子氏

事例紹介：愛知県岡崎市（小林哲夫氏、川合弘晃氏）

【第2回】令和6年8月21日（岐阜市）

基調講演：千葉商科大学 准教授 小口広太氏

（一財）都市農山漁村交流活性化機構 上野美帆氏

事例紹介：愛知県岡崎市（小林哲夫氏、川合弘晃氏）

【第3回】令和6年12月12日（名古屋市）

基調講演：学校給食地産地消食育コーディネーター 杉木悦子氏

（一財）都市農山漁村交流活性化機構 上野美帆氏

事例紹介：（一財）武蔵野市給食・食育振興財団

理事長 北原浩平氏

情報提供：オーガニックファーマーズ名古屋 代表 吉野隆子氏



第1～3回の講演内容（アーカイブ動画）はこちら→

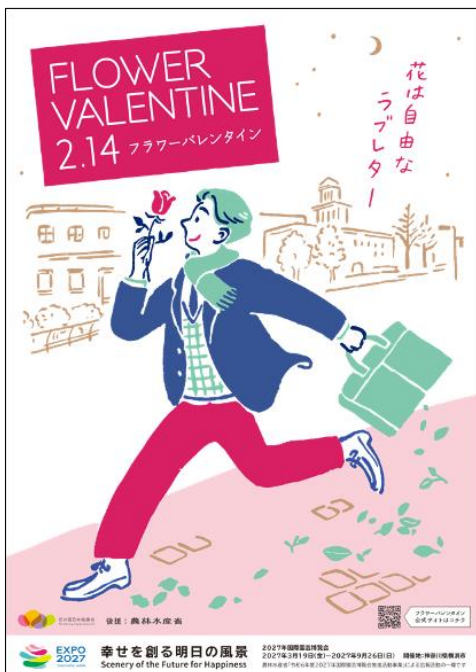


お問合せ先

消費・安全部 消費生活課

TEL 052-223-4651

2.14 FLOWER VALENTINE ～花は自由なラブレター～



2月14日は世界でいちばん花を贈る日。多くの国で、愛や感謝を伝えるために花を贈る習慣があります。

花は、いろんな愛のカタチを表現できるラブレターです。フラワーバレンタインに、恋人、友達、家族、誰から誰に贈ってもいいので、自分の大切な方に花を贈りませんか。きっと、花が想いを伝えてくれますよ。花の選び方など困った時は、気軽にお花屋さんに相談してみましょう。

フラワーバレンタイン2025
公式Webサイト
（花の国日本協議会Webサイト）

バレンタインにぴったりの花のご紹介や花のラブソング、花選びのお役立ち情報などを掲載しています。

Webサイトはこちら



フラワーバレンタイン2025
東海地域イベント情報

東海地域では、フラワーバレンタインを盛り上げるさまざまなイベントが開催されます。

Webサイトはこちら



お問合せ先

生産部 園芸特産課

TEL 052-223-4624

<編 集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4610

<Webサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>



東海農政局



「食・農びっくあっぷ」
Webサイト



メールマガジンの
登録はこちら